

労働者協同組合法
成立記念作品

人は人のために働いて
支え合い、
人のために死ぬ。
結局はそれ以上でも
それ以下でもない。

これは人間の仕事である。

中村哲は問う——“働く”とは何か、“仕事”とは何か、そして“平和”とは！

2023年 2月11日(土) 開演 10時 (開場 9時20分 終了予定 11時30分)

いずみホール (東京都国分寺市泉町3丁目36-12) JR西国分寺駅より徒歩約2分

アフタートーク 谷津賢二氏(カメラマン)

1994年に日本電波ニュース社入所。

1998年～2019年アフガニスタン・パキスタンで中村医師の活動を記録。

医師中村哲の 仕事・働く ということ

語り◎室井滋 朗読◎塚本晋也

写真・映像提供◎ベシワール会/PMs

企画・提供◎日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会センター事業団

一般社団法人日本社会連帯機構

製作◎日本電波ニュース社 HD/16:9/カラー/47分

「長期にわたって中村さんに密着した映像は、中村さんとの信頼の証だ。中村さんは無念の死を遂げたが、この中に生きている。」

上野千鶴子氏（社会学者、東京大学名誉教授）



アフガニスタンとパキスタンで、
病や戦乱、そして干ばつに
苦しむ人々のために
35年にわたり
活動を続けた男がいた。

医師中村哲の
仕事・働く
ということ

1984年に医療支援をスタートし、干ばつ対策用の用水路建設、農村復興へと活動を広げた中村哲医師、その歩みは35年に及んだ。中村医師はまず現地の言葉を覚え、現地の人々との対話を通じ、信頼を重ねていく。「私たちに確乎とした援助哲学があるわけではないが唯一譲れぬ一線は『現地の人々の立場に立ち、現地の文化や価値観を尊重し、現地のために働くこと』である」用水路建設では自ら設計図を引き、重機を運転し、泥にまみれて一緒に作業する。その作業には貧しさゆえにタリバンに参加していた農民も参加していた。「己が何のために生きているかと問うことは徒勞である。人は人のために働いて支え合い、人のために死ぬ。



そこに生じる喜怒哀楽に翻弄されながらも、結局はそれ以上でもそれ以下でもない」荒れ果てた大地は蘇り、農作物は実り、65万人の生活を支えている。

親子で収穫し、家族で食事をする風景は眩しい。
中村医師は言う「これは人間の仕事である」



日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）はその産声を上げた時から「失業・貧乏・戦争なくせ」をスローガンとして活動してきました。その日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）が中村医師の生き方、働き方に強く共鳴し、21年の歳月をかけて中村医師を記録してきた日本電波ニュース社に依頼し「働くこと」と「仕事観」に焦点を当てて作られたのが本作品です。

ウクライナ、ミャンマー、シリア…世界は不安に覆われ、無辜の民の命が理不尽に奪われ続けている今だからこそ、この映画を全国に届けることを私たち（ワーカーズコープ）は願っています。

【参加費】

一般
1000円
学生
無料
事前申込
先着順
※当日、空きが
あれば入場可能
です。

【FAX申込】 下記に記入いただき、**FAX(042-505-8713)**へ送ってください。

*** 申込〆切 【2月10日（金）】 まで**

右下のQRコードからも申込が可能です。

お 名 前	
年 齢	学生・10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代以上
電 話 番 号	— —
メー ル ア ド レ ス	@

主催：ワーカーズコープ東京三多摩山梨 後援：国分寺市
申込先：ワーカーズコープ東京三多摩山梨 042-649-8801
または、こちらのQRコードから申込が可能です。

※ 入場料：一般1000円・学生無料
当日、空があれば入場可能です。


